

新型ペースメーカー導入

「リードレス」 西胆振では初

製鉄記念 室蘭病院 手術時間も30〜40分



室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)は、不整脈の治療に用いる「ペースメーカー」について、導線(リード)がなく、直接心臓内部に留め置くタイプ(リードレスペースメーカー)を導入した。電気信号を感知したり、電気刺激を心臓に伝える電極と、本体を結ぶリードがないのが特長。10円硬貨とほぼ同じ大きさで、同病院は「感染症などのリスクも減る」としている。

(松岡秀宜)

心臓を動かす電気信号がうまく伝わらないことで、心臓の脈が遅くなる「徐脈性不整脈」。失神や目まいなどの症状が現れた際は、ペースメーカーを植え込む治療も必要だ。

▲
製鉄記念室蘭病院で導入した「リードレスペースメーカー」(中央)。従来のペースメーカー(左)より小さく、感染症とい

で結んでいた。

ただ、鎖骨下にポケットを設けたり、切開した部分を縫合するために、手術時間は約1〜2時間必要となる一方、本体を納めた部分やリードから細菌が入り込んで感染症にかかる危険性、リードが断線するトラブルも起こっていた。

これに対して、リードレスペースメーカーは、電極・電気回路・電池全てが一体化した本体(長さ約2・6センチ、直径約0・7センチ、重さ約2センチ筒筒性)を直接、心臓の右心室に留め置くのみ。

足の付け根からカテーテル(細い管)を血管内に挿入して心臓まで運ぶため、手術時間も30〜40分程度で済む。従来のペースメーカー植え込み手術と比べ、「大きな傷口が残らず、感染リスクも低い」(中村裕一循環器内科長)という。

リードレスペースメーカーは、国内では2017年(平成29年)9月から保険適応となっている。西胆振管内では同病院が初の導入。今年2月から、高齢者や透析を受けている人な

ど、主に感染リスクが高い患者(中村循環器内科長)らに用いている。

【ペースメーカー】心臓の電気信号の異常を感知し、人工的に電気信号を発生して、正常な脈に戻す機器。脈が遅くなったときに作動して、心臓に電気信号を与えることで正常な脈拍に戻す役割があるため、心臓を24時間監視している。